入　試　制　度

我が国の入試制度について，その歴史と現状を大学教育との関連においてとらえ，ここに学ぶ大学生像を把握して大学教育及び大学入学者の選抜方法の改善に努めることは重要な課題であり，殊に現行の共通第１次学力試験と大学ごとの第２次試験との総合による選抜方法が大学志願者及び入学者に与えている影響を追跡調査することは強く要請されているところである。また，諸外国の大学入学者選抜制度とその問題点を調査研究することによって，我が国の入学者選抜の一層の改善の資料とすることも重要である。

まず，いくつかの大学において，大学入学者選抜の目標とこれを達成するための選抜の方法を基本的な理念に立ち返って考察し，これをもとに，各学部の独自性と大学全体としての統合性を一層深めた入学者選抜方法を研究することが行われている。

次に，それぞれの学部，例えば，教育学部，理学部，工学部，医学部，外国語学部といった学部の特色とこれらに対する志願者の志望の動機等の調査研究が行われ，これと当該学部入学後の学習意欲との関連も追跡調査されている。

また，共通第１次学力試験に対する志願率別にみた普通科高等学校の状況や，いわゆる職業科高等学校からの大学進学状況の調査も行われている。

現行の大学入学者選抜制度のもとでの大学生像の把握については，本研究協議会の第３プロジェクト研究の一環として，93国立大学の研究委員会の協力のもとに，現行制度による第１回の学生（昭和54年度入学，昭和57年度卒業）についてのアンケート調査が行われ，現代学生の意欲を向上させるには，「卒業論文やゼミナール等を通じて学問研究のきびしさとたのしさを体得させる」こと等が必要であるとの意見が出され，大学教育の一層の充実・改善への検討が進められている。

大学入試センターと各大学との協力のもとに，各学部・各専攻分野の特徴とそれらの第２次試験の実施状況の調査及びこれが高校教育に与える影響等が研究されている。

さらに，大学入試センターを中心とした，本研究協議会の第２プロジェクト及び科学研究費グループでは，諸外国の大学入試制度，殊に，アメリカ合衆国，イギリス，フランス，西ドイツ，イタリア等を中心とした各国の大学入学者選抜の現況とその問題点の調査・研究が進められている。

また，スイスのジュネーブに本部事務局をもつ，「インターナショナル・バカロレア」について，その内容の調査と，この資格をもつ受験生の我が国における受け入れの現状とその将来についての考察が進められている。